



滝川工業株式会社

取締役社長 瀧川 松平氏

— 「ひょうごオンリーワン企業」に認定された感想をお聞かせください。

この度、「ひょうごオンリーワン企業」に認定いただき誠にありがとうございます。自社ブランドを補強する材料になるかと思っておりますので、事業活動や人材確保に有利になればと期待しています。お客様から高い支持をいただいておりますエンジニアリング力と自社製品で、これからも感謝のお言葉をいただけるよう、日々努力してまいります。

— 御社の事業について、教えてください。

製鉄設備、食品製造設備、その他産業設備など様々な分野で、お客様のご要望に沿った工場レイアウトに合わせ最適な設備構成を提案し、設計製作しています。全国の製鉄会社、食品会社をはじめ、その他さまざまな分野のお客様と取引させていただいています。

製鉄・食品メーカーへの設備納入が事業の大きな柱となっており、特に電気炉メーカーに対しては全国的にもほぼ納入実績があります。

— 御社の事業における、他社にはない「強み」とはどういったところにあるのでしょうか。

当社は【製鉄設備】と【食品製造設備】という全く異なる分野でどちらにおいても高い技術力で社会に貢献している総合機械メーカーです。

設計から操業開始まで一貫して担当できるエンジニアリング力を大切にしております。お客様訪問には営業部員のみならず技術部員も同行し、お客様の要望を直にお聞きし、設計作業に活かしています。

鉄と食品。  
2つの分野の設備を軸に、新たな柱と市場の開拓に奮闘！  
四代目就任、100年企業へ。

PROFILE

1979年、加古川市出身。2004年、関西大学大学院を卒業後、同年ダイセル化学工業(株)入社。中国に5年半滞在した経験を持つ。2012年、滝川工業株式会社入社。2020年、取締役社長に就任し、現在に至る。趣味はゴルフとランニング。



本体外観

## —オリジナル技術を生み出すためには、技術者も現場の声を聞くという姿勢が大切ということでしょうか？

ものづくりの現場に足を運び、現場を見て、どんな気づきがあるかを実感することを基本方針としています。技術者と取引先の現場担当者の方が顔を合わせることで、現場の意見を取り入れた設備の開発に至るため、現場からの意見で当社の製品を納入いただけることもあります。

そのため「現場からの声」を大切に、営業部員のみならず技術部員もお客様と顔を合わせ、関係性を築くということが、技術を磨く上でも非常に重要です。お客様、そして社内での情報共有も密に行うことを推奨しており、近年、建屋をワンフロアのオフィスにすることにより、円滑にコミュニケーションを取ることのできる状況を実現いたしました。

## —円滑なコミュニケーションが御社の製品開発にも深く関わっているということですか？

営業・設計・製造・調達部門が連携を取りやすい環境づくりが製品開発にも活かされています。研究開発においても、製鉄・食品の垣根を越えてアイデアを出し合い、お客様の要望に加え、他部門の意見も取り入れることを目的とした会議を毎月行っています。

1981年からは「社内技術論文制度」を立ち上げ、技術部門や調達部門の各担当者が知りえた技術や知識を社員全体の保有技術とする取り組みを推進しています。



## —社内外での情報収集に、常にアンテナを張っておられるのですね。

毎年新たな顧客を開拓する必要があるため、情報収集は欠かせません。2019年にドイツで行われたMETEC（国際金属製造機械展）や、中国やドイツでの食品展示会など国際見本市への参加、見学による情報収集を積極的に行っております。

近年は特に展示会への出展に力を入れており、過去にはタイや台湾へ出展したこともありました。今年も、上海で開催予定だった食品機械の展示会に、設備も導入し出展する予定でしたがコロナウイルスの影響を受け、断念致しました。コロナ禍で見通しは立っておりませんが、中国市場の開拓は来年以降の展望でもあります。

入社以来、展示会や食品部門の発展に力を注いできたので、中華饅頭蒸し機（製造設備）の大きな市場を持つ中国への進出も期待しております。

## —食品部門においては、中華饅頭蒸し機が御社の主力製品のひとつなのでしょうか？

当社では、プリンや中華まん、蒸しパンや饅頭などの製造を行う設備を開発しております。特に、中華饅頭製造設備においては、いち早く連続式の蒸し機を開発し客先に納入したことによって、現在大手コンビニエンスストア向けの設備を開発・製造するまでに事業規模が拡大しています。



—その他、主要製品があれば教えてください。

—海外も視野に、さらなる発展を目指されているとのことですが、具体的な目標をお聞かせください。

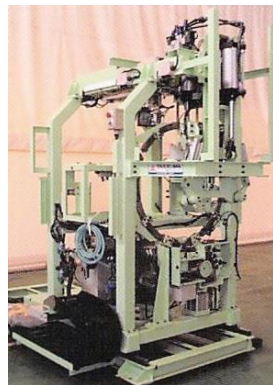
### 計数機分離設備

製鉄会社の圧延棒鋼精整設備に設置し、鉄筋棒鋼、丸鋼を計数し、高速で指定本数に分離する装置です。計数機の誤検出機能により精度の高い計数を行い、特殊リンクアームモーションの分離機で確実に分離します。製品サイズの設定はガイド交換と計数用ホイール交換で簡単に行えます。



### 自動タグ付け機

製鉄会社の精整設備玉掛部において、発行された製品情報が印字されたタグを製品束の端面に取り付ける装置です。工場全体の生産管理データシステムと連携しデータ管理されたラベルを自動で取り付けることでトレサビリティも向上します。結束機と組み合わせて結束ラインでのタグ取付けも可能です。



### ハイブリッドオープン

蒸気とヒータ（電気またはガス式）を併用したハイブリッド型オープンです。焼きと蒸しを同時に、又は前半後半で分けるなど、色々な調理法を設定出来ます。ゆえに、多品種生産に対応可能で、かつ新商品開発にも大きく活躍します。今まで連続生産が難しいとされていたフランスパンも連続で生産することが出来ます。



現在の柱である製鉄設備については、製鉄所の高炉休止を含めた生産拠点の見直しが進められている中で市場の大幅な増大は見込めないため、新たな自社商品の開発が必要と考えています。過去の技術を掘り起こし、今一度ブラッシュアップしていく段階にあります。

もう一つの柱である食品製造設備についても、自社商品である蒸し・焼きの機能を合わせ持つハイブリッドオープンに続く新商品の開発が必要と考えております。そして、海外にも販路を広げていき、現在約10%の海外受注比率を拡大していきたいです。具体的には、やはり大きな市場として中国進出および開拓を目指しております。

更に、これまでとは別の3本目の柱となる分野の確立を目指しています。

今後とも「高い技術力で社会に貢献する総合機械メーカー」として社是である「健康・迅速・正確」を体現できる企業として歩みを進めてまいります。



—「オンリーワン企業」をめざす企業へのメッセージをお願いします。

独自技術を磨き、兵庫県と一緒に盛り上げていきましょう。

# TECHNOLOGY

## 独自技術の「結束機」

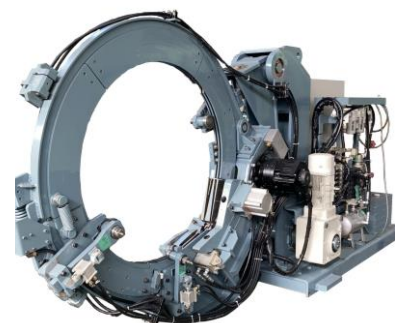
電動小結束機



電動大結束機



電動2重巻結束機



＜電動結束機＞電力使用を動作中のみに限定でき、省エネが可能です。高度な技量を要する油圧機器の整備や調整作業が電動化による数値管理に代わり、簡単に調整が可能です。煩わしい油管理から解放されます。

＜電動2重巻結束機＞1重巻き結束機(電動大・小結束機)より結束強度が高いため、主に特殊鋼メーカーや鉄筋棒鋼の輸出用ラインに設置されています。

当社の製鉄関連設備の中でも現在業界内トップシェアを誇る結束機は、当社がメーカーへ転換するきっかけともなった製品です。結束機の開発は下請けからメーカーへ、当社独自製品の開発・販売推進への大きな転期となりました。

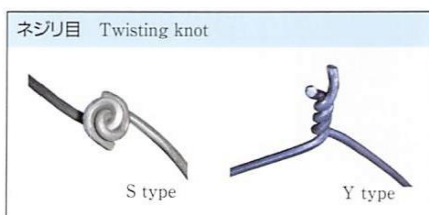
「納入実績 700 台以上」を誇る油圧式結束機、そして自社で「国内初となる電動タイプを開発」し省エネ・環境対策にも貢献する電動式結束機に加え、現在開発中の電動2重巻結束機が新製品として加わります。

### 開発に至った経緯

1975年(昭和50年)以前は、他社の結束機を購入し、生産ラインに組み込んでおりました。ところが、購入元のスウェーデンの企業と袂を分かつこととなったのです。独自開発に踏み切り、1978年(昭和53年)、自社開発第1号の結束機を国内取引先に納入するに至りました。翌年には日本のエンジニアリング会社を通じて韓国企業への納入も果たし、これが当社の大きな転換点となったといえます。

### 独自性

- ・ 高速運転・耐久性。
- ・ 高いメンテナンス性。
- ・ 短時間で番線セットが可能。
- ・ 各機種共通のパーツが多い。
- ・ 多彩なラインナップ。



### 今後の展望

2014年(平成26年)に当社独自の電動式結束機第1号機を納入して以来、結束機をバージョンアップさせお客様の要望にお応えすべく、現在電動式の新ねじり目Mタイプを開発中です。これまでの番線結束機のねじり目はYタイプとSタイプでしたが、新ねじり目Mタイプには両方の長所を取り入れ、特許も申請しております。今後の主力結束機となることを期待しています。

# TOPICS

## 2017年 「地域未来牽引企業」に認定

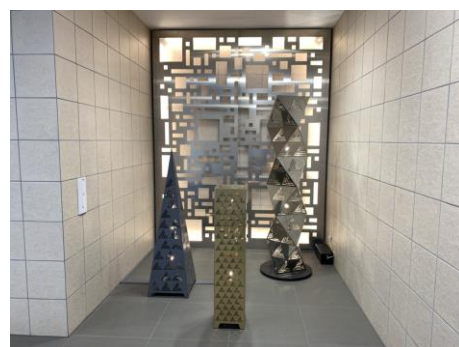
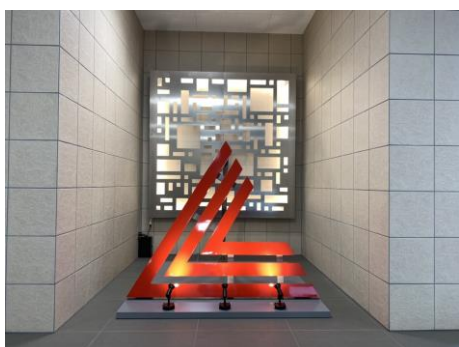
経済産業省により『地域経済の中心的な担い手となりうる事業者』として認定されました。

地域に根差した優良企業として推薦され『地域内外の取引実態や雇用・売上高を勘案し、地域経済への影響力が大きく、成長性が見込まれるとともに、地域経済のバリューチェーンの中心的な担い手、および担い手候補である企業』として認められました。

## 2020年 新エントランス完成

神戸松蔭女子学院大学とのコラボレーションにより、新厚生棟に滝川工業の金属加工技術を活かしたデザインのエントランスが誕生しました。

2018年に完成した新厚生棟のエントランスが殺風景だったため、リフォームを神戸松蔭女子学院大学ファッション・ハウジングデザイン学科の米原先生に依頼し、2019年5月よりエントランスプロジェクトが始動。米原先生・ゼミ生5名と社内各部署の協力のもと、2020年10月に新エントランスが完成しました。



## 沿革

1943年02月 加古川市別府町別府56において、滝川勝一が創業  
 1948年01月 資本金18万円で株式会社へ改組  
 (株)滝川組となる  
 06月 資本金50万円で協立興業(株)と改称  
 1949年09月 滝川松男、社長に就任  
 1950年05月 滝川工業(株)と改称  
 1957年01月 加古川市別府町別府1254に本社および工場を新設。  
 神戸営業所開設  
 1958年08月 資本金を400万円に増資  
 1959年12月 プレス工場を新設  
 1960年12月 製缶工場を新設  
 1963年04月 資本金を1500万円に増資  
 08月 加古川市平岡町中野211の1に新工場建設  
 別府より本社および工場移転  
 1964年02月 現場工事関係を分離し、新たに滝川工業株式会社を設立  
 資本金を3000万円に増資  
 1965年03月 資本金を3000万円に増資  
 1968年05月 神奈川県厚木市恩名字沖原1576に、厚木工場を新設  
 1969年03月 資本金を4800万円に増資、電子計算機導入  
 機械工場を新設  
 1970年06月 本社事務所、組立工場を新設  
 1972年04月 東京都港区新橋1丁目18番11号(一松ビル6階)に東京営業所開設

1975年12月 大型組立工場を新設  
 1977年04月 本社事務所を加古川市別府町石町52に新築移転  
 1979年01月 加古川市工場内にプレス工場を新築増設  
 1980年09月 東京営業所を中央区日本橋本町2丁目6-1(プラザビル4階)に移転  
 1982年06月 資本金9600万円に増資  
 07月 新島工場新設(第1期工事)  
 1986年08月 大型門型マシニングセンター導入  
 09月 (株)神川鉄工所がグループ傘下となる  
 12月 滝川工業(株)を(株)滝川製作所に改称、資本金を4500万円に増資  
 1988年11月 (株)滝川製作所のメンテナンス部門を独立し、資本金3000万円で滝川メンテナンス(株)として新たに設立  
 1990年04月 滝川勝吾、社長に就任  
 09月 CAD・EWSシステム導入  
 1995年09月 ISO9001認証取得  
 1998年11月 ISO14001認証取得  
 2000年02月 会社のシステムとパソコンネットワークシステムを完備  
 2004年09月 OHSAS18001を含むISO9001およびISO14001の3つの統合マネジメントシステム統合認証取得  
 2006年04月 生産管理システム TECHS-S導入

2010年06月 大型精密機械加工用門型マシニングセンター MPC-3160 導入  
 11月 大型精密機械加工用横型マシニングセンター BSF-150B-NC 導入  
 2014年10月 大型精密機械加工用門型マシニングセンター MPC-41120B 導入  
 2015年03月 中型精密機械加工用横型マシニングセンター YBM-10T-5PLS 導入  
 09月 東京営業所を荒川区荒川1丁目50-10に移転  
 09月 (株)滝川製作所を滝川工業 加古川工場に統合  
 09月 厚木工場にCNCパンチ・レーザー複合機導入  
 2017年10月 加古川工場内にて新大型組立工場(第4工場)竣工  
 12月 経済産業省より『地域未来牽引企業』に認定される  
 2018年05月 本社事務所を加古川市平岡町中野211-1に新築移転し、加古川工場事務所を統合  
 11月 3D-CADシステムを導入  
 2019年05月 (株)神川鉄工所と(株)滝川製作所が統合  
 09月 ISO45001認証取得  
 11月 中型精密機械加工用横型マシニングセンター YBM-8T-5PLS 導入  
 2020年04月 滝川松平、社長に就任

## 会社概要

所在地 〒675-0113 兵庫県加古川市平岡町中野211-1(本社工場)  
 電話 079-435-1221  
 FAX 079-435-1223  
 URL <https://tkk-gr.co.jp/company/>

従業員数 178名  
 資本金 9600万円  
 (グループ合計2億300万円)  
 設立 1948年1月  
 取締役社長 滝川 松平

## 事業概要

製鉄設備・食品生産設備・産業機械・運搬機械・省力化機械の設計・製作・施工。  
 大型精密機械加工・大型プレス・大型製缶加工・組立